

1 学年 SS 基幹探究「探究基礎Ⅰ」報告

◇期 日 4月16日(金)～6月25日(金)の火・水・金曜日

◇場 所 本校教室・理科実験室・図書館・探究講義室

1学年探究科学科80人は1班16人の計5班に分かれて、4月から週3時間、SS 基幹探究「探究基礎Ⅰ」に取り組んできた。今後の探究活動に必要な「読み解く力」の育成のために、国語、地歴、数学、理科、英語の5教科の課題を各4時間で行った。

国語では、「おくのほそ道」と「曾良随行日記」の2つの文献を、地図等を参照しながらそれぞれの正確な読解をし、その比較をした。同じ道程を旅した2人の文献だが、相違点も多く、それぞれの目的や元禄時代の旅の細かな背景についても考えることができた。

地歴では、「身近なものから世界を見る」というテーマで、地図や統計資料といった情報を正しくとらえたり、どのように発信すればいいのかを考えたりした。グループで活動している分、「相手を納得させよう」「他のグループより面白い内容にしよう」という意識で取り組んだ者も多かった。与えられた事実やデータの中で論理的思考を育成した。

数学では、 n 乗和の法則を考え、4つのグループに分かれて3時間かけて図や数式といった様々な視点から、1乗和、2乗和、3乗和……の規則性の証明をした。一筋縄ではいかない課題だった分、自分で深く考えたり、グループ内で協力したりして、それぞれが結論を出すことができた。その後、用紙にまとめ、他のグループに向けて分かりやすく発表した。

理科では、まずその日のテーマに関する科学現象を見て、その後は説明文を読んで課題に取り組んだり、実際に実験を行ったりして考察をした。その科学現象がシンプルでかなり興味深いものだと感じたので、考察も深いものになった。また、テーマが私たちの生活に身近なものであったため考えやすかった。

英語では、ALTのHannah先生の進行のもと、グループでのディスカッションを通じてCritical Thinking(批判的な思考力)を育成した。授業中はEnglish onlyを心掛け、頑張って聞き取り、話すときもできるだけ日本語を使わないようにした。また、英語で書かれたテキストから必要な情報を取り出し、その情報を理解したうえで言語化できる表現力を身につけた。

どの教科の授業でも、主体的に考え、意見を交わすシーンが多くあり、「面白かった」「深く考えることができて楽しかった」という感想が聞かれた。一方で、順序立てて課題を解決していったり、実際に声に出して説明をしたりすることの難しさを感じた人も多いようだった。

また、今回の探究活動のテーマである「読み解く力」を高めるため、全ての教科で多くの文章やデータが与えられた。資料から情報を短時間で正確に読み取り、自分の中で理解・分析し、伝えたいことを発信することは、将来にわたって重要だと感じた。「探究基礎Ⅰ」を通して、その力がまだ足りていないと気づくこともできた。日々の生活の中で、今後とも「読み解く」ことを意識しながら過ごしていきたい。

(16H 室谷 記)

